

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1492300049
法人名	有限会社あしすと
事業所名	グループホーム めろでいー
訪問調査日	平成20年10月21日
評価確定日	平成20年11月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1492300049
法人名	有限会社あしすと
事業所名	グループホーム めろでいー
所在地	256-0816 小田原市酒匂1399-1 (電話) 0465-20-6555

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成20年10月21日
評価確定日	平成20年11月30日

【情報提供票より】(平成20年10月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	人
利用定員数計	18 人
常勤	人
非常勤	人
常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造枠組み壁式工法造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	37,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり	1200 円		

(4) 利用者の概要(10月 8日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団山口医院、医療法人間中病院、オーリーブ歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは今年4月に設立された新しい施設であるが、経営母体の(有)あしすととは既に同じ小田原市の北部にグループホームはも一も一を持っており、そのノウハウがこのホームに生かされている。地理的には小田原市で発展が著しい鴨宮駅から徒歩10分程度の駅北東の商業地域にある。商業地域から少し奥まっているので静かな環境にある。このホームの設立趣旨は①グループホームを中心とした地域に開かれた福祉事業の展開、②居宅支援事業所及びその中の社会福祉士による居宅支援及び成年後見制度の相談・指導、③多目的スペースによる地域との交流、地域貢献などである。ホームとしては「あきらめない介護」を目指しており、利用者は「今日出来ること」「明日も出来る」とは限らないと肝に銘じ、今日行う「個別介護」を進めるようにしている。ホームの開所時点に見学会を開催し、地域の皆さん、自治会、民生委員の方々をお招きした。大家さんは地域の方であり、全体として、第1段階としては地域へのアプローチが出来たと考えている。建物自体に余裕があり、多目的ホール、広いリビングなど幅広い活用の余地を残している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>新設であるため、開設以来、職員体制固めを重点に取り組んだ。採用した職員はグループホーム勤務が初めての人、認知症ケアが初めて、もしくは具体的知識が不十分な人もいるので、①認知症の人への対応・声かけなどの基本ケアの統一、②利用者さんの意向を尊重した目立たない支援につき所内、外部研修を活用して実施して来た。またグループ内介護福祉士の研修指導もしている。一方、職員の心のケアにも気を付けてストレスマネジメントとしての面談を目立たぬ形で行いフォローに努めている。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>新規開設のため今回の自己評価が初めてである。従って、外部評価に当たってのショートカンファレンス等を開催して周知するとともに、資料等をスタッフルームに置き、読んでもらい、理解してもらうよう努めた。自己評価作成に当たっては各フロアのユニットリーダーが職員から意見を収集し管理者が纏めた。プロセスでの気付きや評価での指摘事項については改善策を作り、改善に取り組むことにしている。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議については、新しい施設であるため、現在、第1回目を年度内に開催すべく準備を進めている。自治会長及び民生委員の方とはこのホームの開所見学会を通じて連携は取れる状態にあり、早々に準備して開催を実現したいと考えている。小田原市のグループホーム連絡会が先に開設されており、その連絡会で合同の運営推進会議の開催を企画中であり、(有)あしととのオーナー(当ホームのオーナーでもある)が役員であるのでその合同運営推進会議へも参加協力する予定にしている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族へは年3回の機関紙と金銭出納報告と毎月の報告をお届けしている。またお誕生日等のイベントにはご家族にも参加をご案内している。健康面では主治医との連携を取り、主治医からもご家族にご説明を頂き、また特に他院への通院などについては電話でご連絡し、通院の介助などをお願いするケースもある。ご家族に対しては意見・苦情の窓口担当者をお知らせし対応する体制を取っている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会との連携では町内清掃や納涼祭に参加している。ボランティアの方にはイベント時などに活用しており、三味線、手品、民謡、尺八、踊りなどの方が来てくれており、例えばお誕生会などに賑わいを添えてもらっている。地域の福祉・介護のプロとして、グループの居宅支援事業所との連携も含めた形で地域に貢献出来るよう考えている。小田原市のグループホーム連絡会の会合にも多目的スペースを提供している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の住民に見守られながら、一人一人の個性に合わせた生活が安心して送れる様な環境を作る。又、開放的な運営を目指している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティング・ケースカンファレンスなど日々の生活の中で、利用者・職員と積極的に関わりを持ち課題を共有している。QOL向上の為の勉強会(知識・技術など)を行っている。	○	今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの開所時点に見学会を開催し、地域の皆さん、自治会、民生委員の方々をお招きした。大家さんは地域の方であり、全体として、第1段階としては地域へのアプローチが出来たと考えている。行事や活動には積極的に参加している。地域の方々にも理解を得られて来ている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に当たってのショートカンファレンス等を開催して周知するとともに、資料等をスタッフルームに置き、読んでもらい、理解してもらうよう努めた。評価の意義を理解してもらえる様、また、意識向上を目的にミーティング等で話しをしている。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、新しい施設であるため、現在、第1回目を年度内に開催すべく準備を進めている。自治会長及び民生委員の方とはこのホームの開所見学会を通じて連携は取れる状態にある。小田原市のグループホーム連絡会で合同の運営推進会議の開催を企画中であり、参加する予定である。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政への情報提供や課題に向けた協働に取り組んだり、市の地域包括支援センターの担当者と必要に応じ連携している。	○	運営推進会議にご参加頂き、情報交換の場を定期的に設ける。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の報告や年3回(5・9・1月)機関誌の発行、電話などでの報告を行っている。来園時に出納帳にて金銭管理の確認をしてもらっている。健康状態等について、詳細に知りたい場合は、主治医と連携を取り、ご家族に説明して頂いている。	○	個々に合わせ、その都度、電話などでお知らせしている。今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を設け明示している。対応案等で検討し改善につながる様に対応する体制をとっている。来園時には声かけなどを行い確認している。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	努力をし、出来る限りの配慮をしている。、職員の心のケアにも気を付けてストレスマネジメントとしての面談を目立たぬ形で行いフォローに努めている。	○	今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、出来るだけ参加してもらい報告書を作成し伝達・確認できる様にしている。施設内でも、研修を行ったり、適任者を配置しアドバイス等をしている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の協議会の研修への参加や地域の同業者とのネットワーク作りを通して質の向上に取り組んでいる。(市内事業所連絡会)市内事業所連絡会で合同運営推進会議の開催を検討している。	○	今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況がゆるされる場合は、ご本人に見学しに来て頂き、ご家族と共に雰囲気になれて頂く様にしている。系列の居宅支援事業所等の機能の活用も心がけている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で常に一緒に生活をしているという関係を作っている。教えられたり、話を聴いたり、本人の知っている事、出来る事などを生かしながら、一緒に生活しているという関係を築いている。	○	今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや、意向をくみ取り、希望にそえるよう言葉かけや雰囲気作りを行っている。一人一人の希望や意向を把握出来る様、ミーティング等も含め、日々検討している。	○	今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族や関係者と充分話し合いながら、その人に合った、必要とされている計画を作成している。自らが望む生活を忌憚なく言える、また表現できる環境作りを心がけている。	○	自らが望む生活を忌憚なく言える、また表現できる環境作りをする。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その人の現状にあった介護が行えるよう、話し合いや見直しを行い、計画を作成している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時の状況に応じて柔軟な対応を取り、支援している。同一法人内の居宅支援事業所と連携して情報の提供を行ったりしながら、相談援助するようにしている。	○	今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ希望を伺い納得して頂いた主治医の受診を心掛けている。希望に応じ病状や治療方針・処方内容など詳細な情報を主治医から家族へ直接説明を受けられるよう支援している。	○	今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度、ご家族の希望やDr.の意見等を参考にして対応出来るよう、スタッフと話し合っている。健康面では主治医との連携を取り、主治医からもご家族にご説明を頂き、また特に他院への通院などについては電話でご連絡し、通院の介助などをお願いするケースもある。医療連携体制を取っている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮する様、その状況に合わせ言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いについてもプライバシーを損ねる事の無いように徹底している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えや希望を聞き入れたり、各々のペースを保ち、尊重しながら過ごして頂けるよう支援・配慮している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備・片付け・盛り付けや色彩を工夫するなどと一緒にしてもらい、楽しく食事をして頂けるよう心がけている。一人一人に合わせた、食べやすさに対しての工夫もしている。	○	今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の状態に合わせて配慮した方法で希望に合うよう対応している。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴やその人の出来る力を活かした役割分担や楽しみながら希望に合わせて季節感・安らぎ・潤いをもたらすよう、工夫を生活の中に取り入れ支援している。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉鎖的な雰囲気を作らずに、玄関を開放し職員が付き添い安全が確保される限り自由に外出出来る。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠していない体制をとっているが、施錠が必要な場合もあるので、その場合は短時間で対応している。定時に人員確認を行っている。又、不穏者が発生した場合は要注意の意識を職員間で持つよう、心掛け合っている。	○	今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マップの提示 広域避難場所の周知 民間警備会社への業務委託	○	地域の消防団の会合時に入居者の内容について説明させて頂いたり、施設見学に来て頂いたりして、地元自治会と連携させて頂く等、検討している。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が著しく減少し、栄養状態の低下が明らかに認められる場合は主治医と相談し、高カロリー飲料などの補食にて対応している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい色のカーテンなどを使用している。広めな空間を用意しているので安心して過ごして頂けるようになっている。季節毎の飾り付けや、お花を生けたり、音楽を流すなど、安らぎや潤いをもたらす様、工夫し家庭的で居心地良く暮らして頂けるよう配慮している。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物品の持ち込みや、使い慣れた物・好みの物を使用し、安心して過ごせるように配慮している。使い慣れた物、好みのも物の使用や、使いやすい物を利用し、安心して居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム めろでいー #
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 小田原市
記入者名 (管理者)	青木 裕二
記入日	平成 20 年 10 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の住民に見守られながら、一人一人の個性に合わせた生活が安心して送れる様な環境を作る。又、開放的な運営を目指している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティング・ケースカンファレンスなど日々の生活の中で、利用者・職員と積極的に関わりを持ち課題を共有している。	○	QOL向上の為の勉強会(知識・技術など)を行っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	機関誌(年3回)、今月の様子(毎月)	○	運推進会議を出来るだけ早く開催できるように、準備をしている。ご家族への季節行事や誕生会へのご招待。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	積極的に努めている。地域の方に誕生会等の行事に、ボランティアとして参加して頂けるようになってきた。日々の散歩や買い物などで近所の方々とふれあっており、開放し自由に交流できるよう配慮している。	○	季節行事や誕生会へのご招待。行事や騒音を伴う工事を行う際には、近隣住民に予め、書面で通知している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事や活動には積極的に参加している。地域の方々にも理解を得られて来ている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>開所して半年が経過しようやく、利用者・職員共に、GHめろでいーとして、地域住民の方々に、認知されてきました。今後は運営推進会議等を通じて、めろでいーとして何かお役立て出来る事がないか模索していく。</p>	○	<p>地域ふれあいスペースを開放し自由に使って頂く、自治会・文化祭への作品の出品、運営推進会議を通じ介護相談窓口を設ける。</p>
---	---	---	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義を理解してもらえる様、また、意識向上を目的にミーティング等で話しをしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度中に実施する準備を行っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政への情報提供や課題に向けた協働に取り組んだり、市の地域包括支援センターの担当者と必要に応じ連携している。</p>	○	<p>運営推進会議にご参加頂き、情報交換の場を定期的に設ける。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度や権利擁護に係わる研修に積極的に参加し、またここで得た知識をフロアミーティング等で職員にもこれを還元するようにしている。(外部研修・内部研修)</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>市の虐待防止対策会議に参加したりし、ミーティング時にその内容をスタッフに伝えたり必要に応じ忠告している。</p>	○	<p>スタッフ同士、日々お互いに気を付け話し合いながら対応している。又、運営推進会議の中で地域包括支援センターに参加して頂き、高齢者虐待防止についてのお話をして頂く。</p>

項目

取り組みの事実
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容
(すでに取り組んでいることも含む)

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問等を聞き取りながら説明を行っている。又、解約をする際には医師や関係者等と十分な話し合いを行い不安なく退去後の生活の場が提供されるよう援助している。又、退去後に虐待が想定される場合には、予め地域包括支援センターとも連携を図る。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、意見や苦情が有った場合、その都度、個々に聞き取り対策等を検討し改善につながる様に 対応する体制をとっている。	○	今後は運営推進会議の中でも対応できる様にしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の報告や年3回(5・9・1月)機関誌の発行、電話などでの報告を行っている。 来園時に出納帳にて金銭管理の確認をしてもらっている。 健康状態等について、詳細に知りたい場合は、主治医と連携を取り、ご家族に説明して頂いている。	○	個々に合わせ、その都度、電話などでお知らせしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を設け明示している。対応案等で検討し改善につながる様に 対応する体制をとっている。 来園時には声かけなどを行い確認している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見や提案を聞く機会を設け、対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度、調整して行っている。	○	行事や要望がある時には、職員配置を多くとる対応をしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	努力をし、出来る限りの配慮をしている。	○	ストレスマネジメント
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	研修については、出来るだけ参加できるように報告書を作成し		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、出来るだけ参加してもらい報告書を作成し伝達・確認できる様にしている。 施設内でも、研修を行ったり、適任者を配置しアドバイス等をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の協議会の研修への参加や地域の同業者とのネットワーク作りを通して質の向上に取り組んでいる。(市内事業所連絡会)	○	市内事業所連絡会で合同運営推進会議の開催を検討している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所はくつろげる様に工夫をし必要な備品もそろえている。食事会や懇親会なども行っている。	○	ストレスマネジメントについて専門家より学びを得る。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の参加や資格取得へのアドバイスや手当の創設など向上心を持って働ける様に努めている。	○	資格取得を目指すスタッフには法人として積極的にサポートしたり、資格取得の際には手当の支給も用意する体制を取っている。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前には必ずご本人とお会いし、状況の確認を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られたご家族には、その他の情報を含めた内容を提供し、対応している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく聞き取りをし、理解・納得をしていただけるよう話し合いをし、見極め対応している。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況がゆるされる場合は、ご本人に見学しに来て頂き、ご家族と共に雰囲気になれて頂く様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で常に一緒に生活をしているという関係を作っている。	○	教えられたり、話を聴いたり、本人の知っている事、出来る事などを生かしながら、一緒に生活しているという関係を築いている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来園時に声かけをしたり、報告・相談をし一緒に支援をしていける関係を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に来園して頂いたり、一緒に外出や外食をして頂いたりなど積極的に支援している。	○	外出からの帰園時には、情報提供をして頂き、より良い関係が築ける様支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来園して頂いたり、連絡を取ったり、住んでいらした家や場所に行きついでたり等している。又、機関誌をご希望に応じ増刷し送付している。	○	以前住んでいた家を訪問したり、ご近所だった方やお友達にも会っていただいている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。	○	プライバシーを守りながら皆で生活している事への関わりや楽しさを感じてもらえる様、支援している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開所から6ヶ月、現在のところ退去者はいません。	○	必要に応じ、利用者や家族のニーズに応えられるよう、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターなどと連携を取りながら、出来る限りの支援を行っていく。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや、意向をくみ取り、希望にそえるよう言葉かけや雰囲気作りを行っている。	○	一人一人の希望や意向を把握出来る様、ミーティング等も含め、日々検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及びご家族とのコミュニケーションをとり、個々の生活歴・個性・価値観などを認識し、対応しながら把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来る事・出来そうな事をする為の工夫や環境作りをしたり、日々の生活の中で、どの様な変化があるかなどを見極め、把握するよう努めている。	○	表情やしぐさ等、わずかなサインなどを見落とすことなく職員間で貴重な情報として共有し、アセスメントに生かしている。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族や関係者と充分話し合いながら、その人に合った、必要とされている計画を作成している。	○	自らが望む生活を忌憚なく言える、また表現できる環境作りをする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その人の現状にあった介護が行えるよう、話し合いや見直しを行い、計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入し、様々な情報を共有出来る体制になっている。計画の見直し等にも活用している。	○	状況の記録のみならず、必要に応じ発言内容をありのままに記録に残す事により、利用者の声を介護計画に反映させている。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時の状況に応じて柔軟な対応を取り、支援している。	○	同一法人内の居宅支援事業所と連携して情報の提供を行ったりしながら、相談援助する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の敬老会への出席や納涼祭への参加など、協力しながら参加している。	○	誕生会のボランティアとして自治会の方に来園して頂き、手品などを披露して頂いている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば外部のサービスを受けられる様な体制を整えている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員とはいつでも連絡相談できる体制を整えている。	○	運営推進会議上での相談等も行っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ希望を伺い納得して頂いた主治医の受診を心掛けている。	○	希望に応じ病状や治療方針・処方内容など詳細な情報を主治医から家族へ直接説明を受けられるよう支援している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	元々のかかりつけ医の受診や専門医の受診を通して相談できる関係を築いている。		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診医の看護師とは日常的に相談出来る体制にあり、週1回訪問して支援してもらっている。又、24時間の医療連携体制もとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は、定期的に見舞いに行き、病状等を確認したり、声かけにて安心感を持ってもらえる様、対応している。	○	地域医療連携室とも密に連絡・相談を行っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度、ご家族の希望やDr.の意見等を参考にして対応出来るよう、スタッフと話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に情報伝達をしっかりと行い、NsやDr.と連携し、ご家族にも情報提供しながら、より良く暮らして頂ける為に出来るだけ、やれる事に取り組みながら支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来るだけ住み慣れた場所での生活が続けられるよう、対応してきているが、そのような際には適切な情報提供と話し合いを行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮する様、その状況に合わせ言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いについてもプライバシーを損ねる事の無いように徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の意志を尊重しながら働きかけたり、内容を理解して頂けるよう説明(話し)を繰り返すなどしながら、ご本人が希望を表せる事が出来るよう、支援している。	○	自己表現のできない利用者の場合は、家族から生活歴などを伺う。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えや希望を聞き入れたり、各々のペースを保ち、尊重しながら過ごして頂けるよう支援・配慮している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の好みを取り入れたり、ご本人の希望により地域の美容室へ行っている。 ご本人の意志を尊重しながら、状況に合わせ支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備・片付け・盛り付けや色彩を工夫するなどを一緒に行ってもらい、楽しく食事をして頂けるよう心がけている。	○	一人一人に合わせた、食べやすさに対しての工夫もしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望があれば、その都度、状況に合わせ支援している。	○	主治医とも相談しながら、身体に影響の出ない範囲で楽しんで頂いている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	アセスメントを入念に行い、その都度、対応し、状況に合わせて使い分けをし、プライバシーに配慮するよう心掛けて支援している。	○	福祉用具の活用や環境整備などのハード面も併せて考慮する。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の状態に合わせ配慮した方法で希望に合うよう対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に合わせた安眠休息が出来る方法で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴やその人の出来る力を活かした役割分担や楽しみながら希望に合わせて季節感・安らぎ・潤いをもたらすよう、工夫を生活の中に取り入れ支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望により所持されたり、ご家族との話し合いで、お小遣いを預かったり、希望や必要に応じ使用出来るように支援している。又、出来る限り利用者自身でレジに並んで頂き、支払いをしておつりを頂く等、今までと同じように社会との交流が図れるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉鎖的な雰囲気を作らずに、玄関を開放し職員が付き添い安全が確保される限り自由に外出出来る。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別でご本人の希望を取り入れたサービスを行っている。ご家族との外出についても支援している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各部屋に電話を引き込める様にし、使用されている方もいらっしゃるが、ご本人の希望に応じてスタッフ対応している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるよう対応している。訪問された場合は自室にて対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その都度スタッフに禁止行為を説明している。それに変わる対策も含め話し合えるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠していない体制をとっているが、施錠が必要な場合もあるので、その場合は短時間で対応している。	○	定時に人員確認を行っている。又、不穏者が発生した場合は要注意の意識を職員間で持つよう、心掛け合っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時の人員確認や、見回りなどによって安全を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の状況に合わせた対応を取っている。状況の変化時には、ご本人及びご家族と話し合い決定している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険性の高い方への対応や事故発生時の対応等、話し合っている。	○	消防訓練時に防災についての話し合いを行う。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	転倒・嘔吐・意識消失などケースに応じた初期対応について、教育委員会が中心となり、現場に情報提供している(内部研修)	○	救急法の講習会を受講するなどして、有識者から直接、知識や技術を習得する。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マップの提示 広域避難場所の周知 民間警備会社への業務委託	○	地域の消防団の会合時に入居者の内容について説明させて頂いたり、施設見学に来て頂いたりして、地元自治会と連携させて頂く等、検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況に応じて説明しているが、必要に応じてはDr.より説明してもらう場合もある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に日々しっかりした観察が出来るようミーティング等で話し合っている。又、急変時にはオンコール体制を整えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をスタッフで管理し内容を確認出来る様にしている。 毎回往診時に薬剤師に同席して頂き、口答及び書面で助言・指示をもらうなど連携を取っている(薬剤管理指導)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腹部マッサージや食物繊維の多い食品や乳製品など毎日の食事で工夫できる事は実施し、十分な水分摂取量が確保出来るようにしている。また散歩などの運動も日常的に実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアや入歯の洗浄など支援している。	○	口腔内の自浄作用を催促するような口腔体操を行う。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が著しく減少し、栄養状態の低下が明らかに認められる場合は主治医と相談し、高カロリー飲料などの補食にて対応している。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種、健康診断の定期的な実施(利用者・職員)対策マニュアルはスタッフルームに設置している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理の担当者を立て、賞味期限切れなど品質管理を行っている。 定期的に調理器具の消毒を行っている。また、手洗いの励行なども実施して安全確保している。	○	食材の保管として専用の保管場所にて管理している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の安全が確保出来る限り玄関を開放している。また、花などを植えて親しみやすくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい色のカーテンなどを使用している。広めな空間を用意しているので安心して過ごして頂けるようになっている。	○	季節毎の飾り付けや、お花を生けたり、音楽を流すなど、安らぎや潤いをもたらす様、工夫し家庭的で居心地良く暮らして頂けるよう配慮している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂は開放的に利用出来るが、間じ切りして個別に利用する事も可能になっている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物品の持ち込みや、使い慣れた物・好みの物を使用し、安心して過ごせるように配慮している。	○	使い慣れた物、好みの物の使用や、使いやすい物を利用し、安心して居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空調や換気等、適切に気を付けて行っている。ロスナイを設置し状況に応じ対応している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>身体機能の低下に合わせ、すべり止めや機械の設置をし、安全性・使いやすさも考え工夫している。</p>	○	<p>利用者の重度化に対応し、安全な介護や安心して自立した生活が送れるよう、設備機器を積極的に導入する。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人一人に応じ、ご本人の意志を尊重しながら声かけや目印など、混乱や失敗のないよう、配慮し工夫している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇を作り、家庭的で親しみやすい様、配慮をし雰囲気作りも楽しみながら行っている。</p>	○	<p>日向ぼっこをし、お茶を飲んだり、体操をしたり、花壇の水やりや陽気に応じて庭先で食事を召し上がって頂くなど、楽しみながら日々活動している。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「今を大切に」今できる事が一年後、同じように出来るとは限らない。今できる事・したい事を傾聴、模索し実現させる。その人らしい生活が出来るように支援する。「あきらめない介護」・ADLや介護度などに囚われず最後までその人らしさを表現出来る環境作りを支援する。医療連携体制をとっており、主治医・家族現場でよく話し合い、看取り介護を行う。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的なかつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明


評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム めろでいー
(ユニット名)	b
所在地 (県・市町村名)	神奈川県 小田原市
記入者名 (管理者)	青木 裕二
記入日	平成 20 年 10 月 9 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	QOL向上の為の勉強会(知識・技術など)を行っている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	機関連誌(年3回)、今月の様子(毎月) 運推進会議を出来るだけ早く開催できるように、準備をしている。ご家族への季節行事や誕生会へのご招待。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	季節行事や誕生会へのご招待。 行事や騒音を伴う工事を行う際には、近隣住民に予め、書面で通知している。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>開所して半年が経過しようやく、利用者・職員共に、GHめろでいーとして、地域住民の方々に、認知されてきました。今後は運営推進会議等を通じて、めろでいーとして何かお役立て出来る事がないか模索していく。</p>	○	<p>地域ふれあいスペースを開放し自由に使って頂く、自治会・文化祭への作品の出品、運営推進会議を通じ介護相談窓口を設ける。</p>
---	---	---	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義を理解してもらえる様、また、意識向上を目的にミーティング等で話しをしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度中に実施する準備を行っている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政への情報提供や課題に向けた協働に取り組んだり、市の地域包括支援センターの担当者と必要に応じ連携している。</p>	○	<p>運営推進会議にご参加頂き、情報交換の場を定期的に設ける。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度や権利擁護に係わる研修に積極的に参加し、またここで得た知識をフロアミーティング等で職員にもこれを還元するようにしている。(外部研修・内部研修)</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>市の虐待防止対策会議に参加したりし、ミーティング時にその内容をスタッフに伝えたり必要に応じ忠告している。</p>	○	<p>スタッフ同士、日々お互いに気を付け話し合いながら対応している。又、運営推進会議の中で地域包括支援センターに参加して頂き、高齢者虐待防止についてのお話をして頂く。</p>

項目

取り組みの事実
(実施している内容・実施していない内容)

(○印)

取り組んでいきたい内容
(すでに取り組んでいることも含む)

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に質問等を聞き取りながら説明を行っている。又、解約をする際には医師や関係者等と十分な話し合いを行い不安なく退去後の生活の場が提供されるよう援助している。又、退去後に虐待が想定される場合には、予め地域包括支援センターとも連携を図る。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、意見や苦情が有った場合、その都度、個々に聞き取り対策等を検討し改善につながる様に 対応する体制をとっている。	○	今後は運営推進会議の中でも対応できる様にしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の報告や年3回(5・9・1月)機関誌の発行、電話などでの報告を行っている。 来園時に出納帳にて金銭管理の確認をしてもらっている。健康状態等について、詳細に知りたい場合は、主治医と連携を取り、ご家族に説明して頂いている。	○	個々に合わせ、その都度、電話などでお知らせしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口を設け明示している。対応案等で検討し改善につながる様に 対応する体制をとっている。 来園時には声かけなどを行い確認している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見や提案を聞く機会を設け、対応している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度、調整して行っている。	○	行事や要望がある時には、職員配置を多くとる対応をしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	努力をし、出来る限りの配慮をしている。	○	ストレスマネジメント
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み	研修については、出来るだけ参加してほしい、報告書を作成し		

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については、出来るだけ参加してもらい報告書を作成し伝達・確認できる様にしている。 施設内でも、研修を行ったり、適任者を配置しアドバイス等をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の協議会の研修への参加や地域の同業者とのネットワーク作りを通して質の向上に取り組んでいる。(市内事業所連絡会)	○	市内事業所連絡会で合同運営推進会議の開催を検討している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所はくつろげる様に工夫をし必要な備品もそろえている。食事会や懇親会なども行っている。	○	ストレスマネジメントについて専門家より学びを得る。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修の参加や資格取得へのアドバイスや手当の創設など向上心を持って働ける様に努めている。	○	資格取得を目指すスタッフには法人として積極的にサポートしたり、資格取得の際には手当の支給も用意する体制を取っている。

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前には必ずご本人とお会いし、状況の確認を行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られたご家族には、その他の情報を含めた内容を提供し、対応している。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく聞き取りをし、理解・納得をしていただけるよう話し合いをし、見極め対応している。		

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	状況がゆるされる場合は、ご本人に見学しに来て頂き、ご家族と共に雰囲気になれて頂く様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で常に一緒に生活をしているという関係を作っている。	○	教えられたり、話を聴いたり、本人の知っている事、出来る事などを生かしながら、一緒に生活しているという関係を築いている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来園時に声かけをしたり、報告・相談をし一緒に支援をしていける関係を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に来園して頂いたり、一緒に外出や外食をして頂いたりなど積極的に支援している。	○	外出からの帰園時には、情報提供をして頂き、より良い関係が築ける様支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来園して頂いたり、連絡を取ったり、住んでいらした家や場所に行きついでたり等している。又、機関誌をご希望に応じ増刷し送付している。	○	以前住んでいた家を訪問したり、ご近所だった方やお友達にも会っていただいている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中で利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。	○	プライバシーを守りながら皆で生活している事への関わりや楽しさを感じてもらえる様、支援している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開所から6ヶ月、現在のところ退去者はいません。	○	必要に応じ、利用者や家族のニーズに応えられるよう、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターなどと連携を取りながら、出来る限りの支援を行っていく。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや、意向をくみ取り、希望にそえるよう言葉かけや雰囲気作りを行っている。	○	一人一人の希望や意向を把握出来る様、ミーティング等も含め、日々検討している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人及びご家族とのコミュニケーションをとり、個々の生活歴・個性・価値観などを認識し、対応しながら把握するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来る事・出来そうな事をする為の工夫や環境作りをしたり、日々の生活の中で、どの様な変化があるかなどを見極め、把握するよう努めている。	○	表情やしぐさ等、わずかなサインなどを見落とすことなく職員間で貴重な情報として共有し、アセスメントに生かしている。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族や関係者と充分話し合いながら、その人に合った、必要とされている計画を作成している。	○	自らが望む生活を忌憚なく言える、また表現できる環境作りをする。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その人の現状にあった介護が行えるよう、話し合いや見直しを行い、計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日記入し、様々な情報を共有出来る体制になっている。計画の見直し等にも活用している。	○	状況の記録のみならず、必要に応じ発言内容をありのままに記録に残す事により、利用者の声を介護計画に反映させている。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時の状況に応じて柔軟な対応を取り、支援している。	○ 同一法人内の居宅支援事業所と連携して情報の提供を行ったりしながら、相談援助する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の敬老会への出席や納涼祭への参加など、協力しながら参加している。	○ 誕生会のボランティアとして自治会の方に来園して頂き、手品などを披露して頂いている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要があれば外部のサービスを受けられる様な体制を整えている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員とはいつでも連絡相談できる体制を整えている。	○ 運営推進会議上での相談等も行っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ希望を伺い納得して頂いた主治医の受診を心掛けている。	○ 希望に応じ病状や治療方針・処方内容など詳細な情報を主治医から家族へ直接説明を受けられるよう支援している。
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	元々のかかりつけ医の受診や専門医の受診を通して相談できる関係を築いている。	
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診医の看護師とは日常的に相談出来る体制にあり、週1回訪問して支援してもらっている。又、24時間の医療連携体制もとっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は、定期的に見舞いに行き、病状等を確認したり、声かけにて安心感を持ってもらえる様、対応している。	○	地域医療連携室とも密に連絡・相談を行っている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度、ご家族の希望やDr.の意見等を参考にして対応出来るよう、スタッフと話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	常に情報伝達をしっかりと行い、NsやDr.と連携し、ご家族にも情報提供しながら、より良く暮らして頂ける為に出来るだけ、やれる事に取り組みながら支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来るだけ住み慣れた場所での生活が続けられるよう、対応してきているが、そのような際には適切な情報提供と話し合いを行っている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮する様、その状況に合わせ言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いについてもプライバシーを損ねる事の無いように徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の意志を尊重しながら働きかけたり、内容を理解して頂けるよう説明(話し)を繰り返すなどしながら、ご本人が希望を表せる事が出来るよう、支援している。	○	自己表現のできない利用者の場合は、家族から生活歴などを伺う。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えや希望を聞き入れたり、各々のペースを保ち、尊重しながら過ごして頂けるよう支援・配慮している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の好みを取り入れたり、ご本人の希望により地域の美容室へ行っている。 ご本人の意志を尊重しながら、状況に合わせ支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備・片付け・盛り付けや色彩を工夫するなどを一緒に行ってもらい、楽しく食事をして頂けるよう心がけている。	○	一人一人に合わせた、食べやすさに対しての工夫もしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望があれば、その都度、状況に合わせ支援している。	○	主治医とも相談しながら、身体に影響の出ない範囲で楽しんで頂いている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	アセスメントを入念に行い、その都度、対応し、状況に合わせて使い分けをし、プライバシーに配慮するよう心掛けて支援している。	○	福祉用具の活用や環境整備などのハード面も併せて考慮する。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の状態に合わせ配慮した方法で希望に合うよう対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に合わせた安眠休息が出来る方法で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴やその人の出来る力を活かした役割分担や楽しみながら希望に合わせ季節感・安らぎ・潤いをもたらすよう、工夫を生活の中に取り入れ支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状況や希望により所持されたり、ご家族との話し合いで、お小遣いを預かったり、希望や必要に応じ使用出来るように支援している。又、出来る限り利用者自身でレジに並んで頂き、支払いをしておつりを頂く等、今までと同じように社会との交流が図れるように支援しています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉鎖的な雰囲気を作らずに、玄関を開放し職員が付き添い安全が確保される限り自由に外出出来る。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別でご本人の希望を取り入れたサービスを行っている。ご家族との外出についても支援している。		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各部屋に電話を引き込める様にし、使用されている方もいらっしゃるが、ご本人の希望に応じてスタッフ対応している。		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるよう対応している。訪問された場合は自室にて対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	その都度スタッフに禁止行為を説明している。それに変わる対策も含め話し合えるようにしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠していない体制をとっているが、施錠が必要な場合もあるので、その場合は短時間で対応している。	○	定時に人員確認を行っている。又、不穏者が発生した場合は要注意の意識を職員間で持つよう、心掛け合っている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時の人員確認や、見回りなどによって安全を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人の状況に合わせた対応を取っている。状況の変化時には、ご本人及びご家族と話し合い決定している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険性の高い方への対応や事故発生時の対応等、話し合っている。	○	消防訓練時に防災についての話し合いを行う。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	転倒・嘔吐・意識消失などケースに応じた初期対応について、教育委員会が中心となり、現場に情報提供している(内部研修)	○	救急法の講習会を受講するなどして、有識者から直接、知識や技術を習得する。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マップの提示 広域避難場所の周知 民間警備会社への業務委託	○	地域の消防団の会合時に入居者の内容について説明させて頂いたり、施設見学に来て頂いたりして、地元自治会と連携させて頂く等、検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況に応じて説明しているが、必要に応じてはDr.より説明してもらう場合もある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に日々しっかりした観察が出来るようミーティング等で話し合っている。又、急変時にはオンコール体制を整えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をスタッフで管理し内容を確認出来る様にしている。毎回往診時に薬剤師に同席して頂き、口答及び書面で助言・指示をもらうなど連携を取っている(薬剤管理指導)		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	腹部マッサージや食物繊維の多い食品や乳製品など毎日の食事で工夫できる事は実施し、十分な水分摂取量が確保出来るようにしている。また散歩などの運動も日常的に実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアや入歯の洗浄など支援している。	○	口腔内の自浄作用を催促するような口腔体操を行う。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が著しく減少し、栄養状態の低下が明らかに認められる場合は主治医と相談し、高カロリー飲料などの補食にて対応している。		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種、健康診断の定期的な実施(利用者・職員)対策マニュアルはスタッフルームに設置している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理の担当者を立て、賞味期限切れなど品質管理を行っている。 定期的に調理器具の消毒を行っている。また、手洗いの励行なども実施して安全確保している。	○	食材の保管として専用の保管場所にて管理している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の安全が確保出来る限り玄関を開放している。また、花などを植えて親しみやすくしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい色のカーテンなどを使用している。広めな空間を用意しているので安心して過ごして頂けるようになっている。	○	季節毎の飾り付けや、お花を生けたり、音楽を流すなど、安らぎや潤いをもたらす様、工夫し家庭的で居心地良く暮らして頂けるよう配慮している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂は開放的に利用出来るが、間じ切りして個別に利用する事も可能になっている。		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の物品の持ち込みや、使い慣れた物・好みの物を使用し、安心して過ごせるように配慮している。	○	使い慣れた物、好みの物の使用や、使いやすい物を利用し、安心して居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空調や換気等、適切に気を付けて行っている。ロスナイを設置し状況に応じ対応している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>身体機能の低下に合わせ、すべり止めや機械の設置をし、安全性・使いやすさも考え工夫している。</p>	○	<p>利用者の重度化に対応し、安全な介護や安心して自立した生活が送れるよう、設備機器を積極的に導入する。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人一人に応じ、ご本人の意志を尊重しながら声かけや目印など、混乱や失敗のないよう、配慮し工夫している。</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>花壇を作り、家庭的で親しみやすい様、配慮をし雰囲気作りも楽しみながら行っている。</p>	○	<p>日向ぼっこをし、お茶を飲んだり、体操をしたり、花壇の水やりや陽気に応じて庭先で食事を召し上がって頂くなど、楽しみながら日々活動している。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
		○	④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「今を大切に」今できる事が一年後、同じように出来るとは限らない。今できる事・したい事を傾聴、模索し実現させる。その人らしい生活が出来るように支援する。「あきらめない介護」・ADLや介護度などに囚われず最後までその人らしさを表現出来る環境作りを支援する。医療連携体制をとっており、主治医・家族現場でよく話し合い、看取り介護を行う。